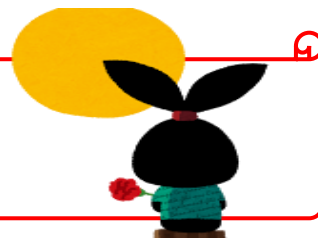


# いずみ

令和7年度 5月号  
図書委員会



新学期が始まって1か月、新緑のまぶしい季節を迎えましたね。図書館では、「松北50選」をはじめ、図書委員がブックショッピングで購入した本や、本屋大賞に選出された本などの新着図書も揃えて、皆さんをお待ちしています。是非、図書館をのぞいてみてくださいね。



## 本屋大賞とは？



全国の書店で働く書店員が選ぶ新刊書の文学賞です。過去1年間に発刊された書籍を対象に、読んで「面白い！」「一番売りたい！」と思った本に投票し決定される賞です。

### 2025年本屋大賞1位は、阿部暁子さんの『カフネ』(講談社)に決定!! (4月9日)



#### 〈あらすじ〉

主人公薫子が食や家事代行サービス会社「カフネ」の活動に関わることを通して、生きる力を取り戻す物語。不妊治療やひとり親家庭などの題材も丁寧に描いた作品です。

2位は、早見和真さんの『アルプス席の母』(小学館)です。早見さんは、2016年から2022年まで松山市にお住まいになっていました。愛媛新聞連載の『かなしきデブ猫ちゃん』やドラマ化された愛媛が舞台の『笑うマトリョーシカ』も早見さんの作品です。愛媛に縁のある早見さんの受賞、嬉しいです!!



2位から10位までの本全て揃っています。  
図書館入って右手の白い本棚をチェック!



#### 【挨拶】

#### 委員長 3年 末光大和さん

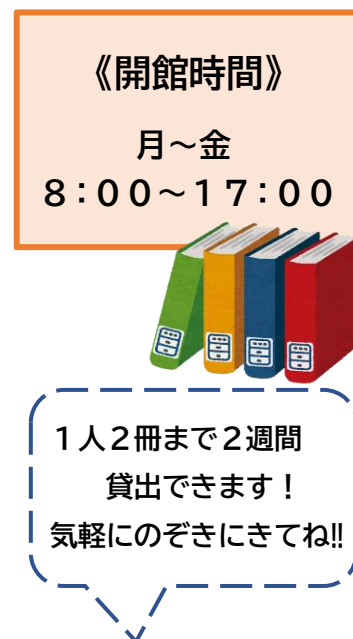
昨年度より引き続き図書委員長を務めさせていただきます。私事ですが、昨年はいろんなことがありました。文化祭では図書委員会での全体責任者として動き、新しい企画にチャレンジしました。ビブリオバトルでは見事優勝することができました。加えて、2年連続の多読賞を受賞しました。そんな昨年を超えるような濃い出来事をたくさん作ることが私の今年の目標です。さて、皆さんは本を読んでいますか？知っていると思いますが、北高には朝読書なる時間が用意されています。私は「読書」することが成長するために重要だからこの時間があるのだと思っています。いろんな場面で書いてきましたが、私は本を読むことで養われる力は『共感力』だと思っています。これは、主人公達と共に笑い、共に泣き、時に、登場人物を憎み、時に、登場人物を愛することです。『共感』できれば傷つけあうこともないのではないのでしょうか？

図書館には図書委員おすすめの本や、朝読書にちょうどいい本がたくさんあります。是非足を運んで下さい。あなたの人生の一冊が見つかるかもしれませんよ。

#### 副委員長 3年 矢野竜成さん

どうも、副委員長となりました3年6組の矢野竜成です。自分自身昨年度も図書委員をやらせてもらい、非常にやりがいのある委員会活動でした。自分はたくさんの本に触れ合ってきたわけではなく、同じ本を何度も繰り返し読むタイプの人間です。今年は受験生でもあるので勉強の傍ら、視野を広げるためにいろんなジャンルの本も読んでいきたいと思います。北高図書館にはたくさんの本があります。ぜひ足を踏み入れてほしいと思います。そして、「図書の延滞だけは厳禁で!」よろしくお願いいたします。





## 《図書委員お薦めの本 part 1》



| 書名              | 作者名   | お薦めの理由                                                                                                                   | 図書委員 |
|-----------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 本を守ろうと<br>する猫の話 | 夏川草介  | たくさんの本のオマージュが散りばめられていて気付くとより面白くなれる。(全然気づかなくても面白いよ！)                                                                      | 301  |
| 容疑者Xの献身         | 東野圭吾  | 非常に面白いミステリー小説。どうやって殺人を隠蔽したのかを刑事たちが解き明かしていく過程が面白いです。作者の作り出す世界観を楽しんでほしいです。ぜひ、読んでみてください。                                    | 301  |
| 永遠のゼロ           | 百田尚樹  | 歴史の授業で学んだ戦争の悲惨さについてより感じ取れる。当時の苦しさが戦争を経験していない私にも強くわかる。再び戦争について考えさせられたよい機会だった。ワクワクできる一面もある。家族や愛する人のために犠牲になっていくという儚さも感じとれる。 | 302  |
| 後宮の烏            | 白川紺子  | 後宮の奥深くに住む「烏妃」と呼ばれる特別な妃と、噂を頼って彼女の元を訪れた皇帝を中心に描くファンタジー小説。烏妃の不思議な術を使って謎を解決していくのが普通のミステリーとは一味違って面白い。図書館にもあるのでぜひ、読んでみてください。    | 302  |
| 項羽と劉邦           | 司馬遼太郎 | 項羽という中国のスーパーエリートつよつよ軍人がどのようにして生き、死んでいくのか、そのラストは必見です。漢文にも出てくるので予習にもお薦めです。                                                 | 303  |
| 君の臍臓を食<br>べたい   | 住野よる  | この本は、映画化もされていて、みんなも一度は聞いたことがある作品。映画と本を両方見ることによって理解度が深まりとても感動します。また、住野よるさんが広げる世界観がとても面白く、すぐ読んでしまいます。                      | 303  |